

確定期日ノ前ニ於テ新ニ資格ヲ得及回復シタル者アルトキハ之ヲ名簿ニ記入スヘシ

第七條 選舉ハ伯子男爵ノ選舉資格ヲ有スル者ヨリ各一人ノ選舉管理者ヲ互選シテ之ヲ管理セシム

選舉管理者ハ貴族院令第四條ニ依リ議員ノ更任アル毎ニ之ヲ改選スヘシ

選舉管理者ハ選舉及被選ノ權一妨ケラレトコトナシ

第八條 各選舉管理者ハ選舉人ノ中ヨリ各一人ノ同爵ノ選舉立會人三人以上ヲ指定シテ選舉會場ニ參會セシムヘシ

第九條 選舉ハ七月十日東京ニ於テ之ヲ行フ

第十條 選舉人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ爵姓名ヲ列記シ次ニ自己ノ爵姓名ヲ記載スヘシ

第十一條 選舉人東京府ノ外ニ居住シ又ハ疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ同爵中ノ他ノ選舉人ニ投票ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シ委託ノ證據ト共ニ委託ヲ受クル者ニ送付スヘシ

第十二條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十三條 前數條ニ掲ケタル者ノ外選舉ニ關ル一切ノ規程ハ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 當選人確定シタルトキハ選舉管理者ハ其ノ爵姓名ヲ上奏シ併セテ貴族院議長ニ報告スヘシ

第十五條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名捺印シ其ノ副本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第十六條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命ジ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

補闕選舉ヲ行フノ手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ

第十七條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十八條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ貴族院開會ノ後十日以内トス



第十九條 選舉ニ關ル費用ハ同爵者ノ支辨タルヘシ

○貴族院多額納稅者議員互選規則(明治二十二年)  
勅令第七十九號

第一條 貴族院令第六條ニ依リ貴族院議員ヲ互選スル者ハ互選名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ多額ノ直接國稅ヲ納メ仍引續キ住居シ及納稅スル者タルヘシ

第二條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ互選人タルコトヲ得ス

第四條 左ノ項ノ一ニ觸ルル者ハ互選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

三 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

四 舊法ニ依リ懲役ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 衆議院議員ノ選舉ニ關ル犯罪ニ依リ選舉權及被選舉權ノ停止中ノ者

第五條 陸海軍軍人ハ現役中互選人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第六條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ互選人タルコトヲ得ス

第七條 互選人選舉ニ關リ輕罪以上ノ罪ヲ犯シタルトキハ互選名簿ヨリ除名セララルヘシ

第八條 府縣知事ハ選舉ヲ行フノ年四月一日ヲ期トシ其ノ府縣ニ於テ互選資格ヲ有スル者十五人ノ名簿ヲ調製スヘシ

互選名簿ハ互選人ノ姓名、職業、身分、住所、生年月、土地或ハ工業商業ニ付納ムル所ノ直接國稅ノ細別及總額並ニ稅納地ヲ記載スヘシ

第九條 納稅同額ノ者アルトキハ生年月ノ長者ヲ先ニシ同年月ノ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條 府縣知事ハ四月二十日マテニ互選名簿ヲ各互選人ニ配付シ併セテ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第十一條 互選資格ヲ得ヘキ者ニシテ自ラ互選名簿ニ記載セラレサルコトヲ發見シタルトキハ

貴族院多額納稅者議員互選規則



告示ノ後十五日以内ニ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得  
凡テ互選資格ヲ得タル者ハ互選資格ヲ得ヘカラサル者ノ互選名簿ニ記載セラレタルコトヲ發  
見シタルトキハ前項ノ手續ニ依リ改正ヲ求ムルコトヲ得  
期限ヲ經過シタル後申立ヲ爲スモ其ノ效ナシ

第十二條 府縣知事前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ之ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ判定スヘシ  
判定ノ結果ニ依リ名簿ヲ改正シタルトキハ其ノ由ヲ關係人ニ通知シ併セテ管内ニ告示スヘシ

第十三條 互選名簿ハ六月一日ヲ以テ確定期限トス

第十四條 選舉ハ六月十日府縣廳ニ於テ之ヲ行ヒ府縣知事又ハ其ノ代理者之ヲ管理ス

第十五條 府縣知事ハ投票ノ時刻ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ七日前ニ各互選人ニ通知書ヲ  
發スヘシ

第十六條 互選人ハ自ラ選舉會場ニ至リ投票スヘシ

投票ハ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名ヲ記載スヘシ

第十七條 互選人疾病事故ニ因リ選舉會場ニ至ルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書又ハ事由書  
ヲ具ヘ投票ヲ封緘シ其ノ表面ニ記名捺印シテ之ヲ他ノ互選人ニ委託スルコトヲ得

第十八條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢シ其ノ結果ヲ告知スヘシ  
但シ當選人其ノ場ニ在ラサルトキハ文書ヲ以テ速ニ其ノ由ヲ本人ニ通知スヘシ

第十九條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉管理者之ヲ決定ス

第二十條 投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス  
投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘ  
シ

第二十一條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭ニルトキハ次ノ投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス  
ヘシ

當選人當選ヲ辭スルコトヲ得ルハ選舉ノ日ヨリ十日以内ニ限ル

第二十二條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選人ノ資格及選舉顛末ヲ錄シテ內閣總理大  
臣ニ報告スヘシ

第二十三條 選舉管理者ハ選舉明細書ヲ作り選舉ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ署名捺印シ其ノ副  
本ヲ貴族院ニ送致スヘシ

第二十四條 議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ之ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキ



コトヲ其ノ府縣ニ命スヘシ  
 補闕選舉ヲ行フノ時期及手續ハ通常選舉ノ例ニ同シ  
 第二十五條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル  
 第二十六條 貴族院令第九條ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ開會ノ後十日以内トス

○貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則(明治二十三年勅令第二百二十一號)

第一條 貴族院ハ每會期ノ始ニ於テ貴族院議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ審査スル爲ニ常任委員ヲ選舉スヘシ  
 第二條 伯子男爵議員ノ各選舉人又ハ多額納稅者議員ノ互選人貴族院令第九條ニ依リ出訴スル者ハ當選議員ヲ被告トスヘシ  
 第三條 原告人ハ訴狀及其ノ副本一通ヲ作り之ヲ議長ニ差出スヘシ議長訴狀ヲ受取りタルトキハ之ヲ資格審査委員ニ付ス  
 第四條 訴狀ニハ請求ノ要領理由及立證ヲ具ヘ原告人自ラ署名スヘシ  
 第五條 資格審査委員ハ訴狀ノ副本ヲ被告人ニ送達シ期日ヲ定メ被告人ヲシテ答辯書及其ノ副本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ

本一通ヲ差出サシメ其ノ副本ハ之ヲ原告人ニ送達スヘシ  
 委員ハ必要ト認ムルトキハ原告被告ヲシテ更ニ辯駁書及再答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得  
 第六條 原告被告ハ郵便ヲ以テ文書ヲ差出スコトヲ得郵便到達ノ日數ハ期限ニ算入セス  
 第七條 資格審査委員ハ議長ヲ經由シテ議員ノ選舉ニ關ル證憑文書ヲ政府ニ要求スルコトヲ得  
 第八條 審査ノ結果ニ因リ刑法ニ觸ルノ事件ヲ發見シタルトキハ議長ヨリ之ヲ司法大臣ニ通告スヘシ但シ之カ爲ニ審査及判決ヲ中止セス  
 第九條 被告人期日內ニ答辯書ヲ差出サルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得  
 天災事變ニ因リ期日內ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スル者アルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ差出サシムルコトヲ得  
 第十條 資格審査委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ  
 第十一條 議院ニ於テ判決シタルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ其ノ議事録ニ依リ議決ノ謄本ヲ作ラシメ之ヲ原告被告ニ送達スヘシ



議院ノ判決ハ理由ヲ付セス

第十二條 貴族院ニ於テ議員ノ當選又ハ資格ヲ不法ト判決シタルトキハ議長ハ其ノ位列ヲ停止シテ奏上スヘシ

第十三條 被告議員ハ前條ノ判決ヲ受クルマテ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自己ニ關ル争訟ニ付テハ自己又ハ他ノ議員ニ託シ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決コ預カルコトヲ得ス

被告議員ハ自己ニ關ル争訟ニ付テハ委員會ニ參スルコトヲ得ス

第十四條 補關議員ノ選舉開院中ニ在ルトキハ伯子男爵ニ在テハ當選確定ノ後多額納稅者ニ在テハ勅任セラレタル後十日ヲ以テ出訴ノ期限トス

前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ仍次會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立サル者アルトキハ第三條第四條第五條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ノ例ニ依リ審査及判決スヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ貴族院伯子男爵議員選舉規則第十八條及貴族院多額納稅者議員互選規則第二十六條ニ掲ケタ

ル期限ノ限ニ在ラス

○貴族院規則(大正十年三月二十六日議決)

第一章 成立

第一條 議員ハ召集ノ詔書ニ指定シタル期日ノ午前九時貴族院ニ集會スヘシ

第二條 集會シタル議員ハ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ

第三條 集會シタル議員總議員三分ノ一二充チタルトキハ議長ハ議長席ニ著クヘシ

第四條 議員ノ席次ハ皇族ヲ首席トシ其ノ席次ハ宮中ノ列次ニ依ル爵位ヲ有スル議員ヲ次席トシ其ノ席次ハ爵位次第二ニ依ル其ノ他ノ議員ノ席次ハ年齡ニ依リ同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム



第五條 議長ハ書記官ヲシテ抽籤セシメ總議員ヲ九部ニ配分シ各部ニ號數ヲ附ス

均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下毎部一員ヲ加フヘシ  
議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

部屬定マリタル後議員トナリタル者ノ所屬部ハ議長之ヲ定ム

第六條 部屬ハ毎會期ニ之ヲ定ム

臨時會ニ於テハ前會ノ部屬ヲ繼續スヘシ

第七條 各部ハ年長部員ヲ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ年長ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第九條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第十條 部長又ハ理事ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第十一條 理事ハ部長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘシ

第十二條 部長理事俱ニ故障アルトキハ出席員中ノ首席者部長ノ職務ヲ行フヘシ

第十三條 部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立シタルコトヲ政府及衆議院ニ通知スヘシ

第二章 假議長選舉

第十四條 假議長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ年長ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム



議院ハ假議長ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ得

第十五條 假議長ノ選舉ヲ行フ場合ニ於テ議長ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ全院委員長議長ノ職務ヲ行フヘシ但シ全院委員長故障アルトキ又ハ其ノ選舉未タ施行セラレサルトキハ出席議員中ノ首席者ヲ以テ之ニ充ツ

第三章 委員

第一節 通則

第十六條 委員會ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第十七條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第十八條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第十九條 委員委員長副委員長主査又ハ副主査ニ選舉セラレタル者ハ正

當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキ

ハ委員長ノ決スル所ニ依ル

委員長ハ討議スルノ權ヲ妨ケラル、コトナシ

第二節 全院委員

第二十一條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ年長ヲ取り同年月日ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 全院委員長故障アルトキハ第一部長ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘシ第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

第二十三條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用



キス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第二十四條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ

即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第二十五條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ  
委員長ノ席ハ議長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第二十七條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第二十八條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十九條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若議事終局セザルト

キハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

第三十一條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第三十二條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ席ニ著キ委員長ノ指揮ニ依リ其ノ事務ヲ掌理スヘシ

第三節 常任委員

第三十三條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス



一 資格審査委員 九人

二 豫算委員 六十三人

三 懲罰委員 九人

四 請願委員 四十五人

五 決算委員 四十五人

其ノ他議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第三十四條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ定ムル所ニ依リ各部同一日

時ニ於テスヘシ

第三十六條 當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第三十七條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス

其ノ

所屬部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第三十八條 常任委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル部ニ於テ

補闕選舉ヲ行フヘシ

第三十九條 常任委員會ハ無名投票ヲ以テ委員長副委員長各一名ヲ互選

シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ抽籤

ヲ以テ之ヲ定ム

委員長及副委員長ノ選舉ヲ終ルマテ委員會ニ關スル事務ハ委員中ノ首

席者之ヲ行フヘシ

第四十條 副委員長ハ委員長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘシ

第四十一條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定

ム



第四十二條 常任委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 常任委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第四十四條 常任委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議院ニ提出スヘシ

常任委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

常任委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ依託スルコトヲ得

議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムルモノ、外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第四十五條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十六條 常任委員會故ナク其ノ報告ヲ遲延スルトキハ議院ハ委員ヲ改選スルコトヲ得

第四十七條 議院ハ常任委員會ノ報告ヲ受クルノ後再ヒ其ノ事件ノ審査ヲ爲サシメ又ハ委員ヲ改選シテ審査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 常任委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ連署シテ其ノ意見ヲ提出スルコトヲ得

少數意見ノ提出者ハ代表者ヲ定メ議院ニ於テ意見ノ趣旨ヲ説明スルコトヲ得

第四十九條 常任委員會ハ委員會議録ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議



ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第五十條 常任委員會議録ハ委員長及副委員長之ニ署名シ又ハ記名捺印シ事務局ニ保存スヘシ

第五十一條 常任委員會ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主查副主查各一名ヲ互選スヘシ主查及副主查ノ互選ニ付テハ第三十九條第一項ノ規定ヲ適用ス  
主查ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補足スルコトヲ得  
副主查ハ主查故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘシ

第四節 特別委員

第五十二條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第五十三條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ

得タル者ヲ以テ當選人トス得票相同シキ者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得

第五十四條 特別委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シタル方法ニ從ヒ補闕選舉ヲ行フヘシ

第五十五條 議院ハ連繫スル數事件ヲ併セテ之ヲ同一ノ特別委員ニ付託スルコトヲ得議長第五十三條第二項ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合亦同シ

第五十六條 本章第三節第三十九條ヨリ第五十條ニ至ルマテノ規定ハ之ヲ特別委員ニ適用ス

第四章 開議散會及延會

第五十七條 會議ハ通常午前十時ニ始ム



第五十八條 議事日程ニ記載シクル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後四時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ事項ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

第六十條 出席議員若定足數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算二回ニ至リ仍定足數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ

第五章 議事日程

第六十一條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序並開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第六十二條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ但シ日程未タ定マラサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第六十四條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

第六十五條 議事日程ニ記載シタル事件ノ順序ヲ變更シ若ハ他ノ緊急事件ニ付キ議事日程ニ追加スルノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長其ノ必要ヲ認ムルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第六十六條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程



ヲ定ムヘシ

第六十七條 衆議院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ハ之ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 衆議院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次キ議事日程ニ記載スヘシ

### 第六章 議事及質問

#### 第一節 發議及動議

第六十九條 議員法律案上奏案建議案又ハ決議案ヲ發議セムトスルトキハ其ノ案ヲ具ヘ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ豫メ議長ニ提出シ議長ハ之ヲ印刷セシメテ各議員ニ配付スヘシ但シ緊急事件ニ付テハ發議者議場ニ於テ其ノ案ヲ朗讀シ定規ノ贊成者ヲ求メテ之ヲ提出スルコトヲ得

第七十條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第七十一條 議題トナリタル議員ノ發議案ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

#### 第二節 讀會

第七十二條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ議案ノ趣旨ヲ説明スルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第七十四條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ衆議院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ



議院ハ委員會ノ報告ヲ待チ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第七十五條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ議長必要ト認ムルトキ又ハ議員ノ動議アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第七十六條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第七十七條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第七十八條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第七十九條 第三讀會ニ於テハ第二讀會ノ決議ヲ以テ議案トス議長ハ便宜朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第八十條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ經テ之ヲ開クヘシ但シ議長必要ト認ムルトキ又ハ議員ノ動議アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第八十一條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ



第八十二條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得ス但シ議案中互ニ牴觸スル事項又ハ現行法律ト牴觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 發言

第八十三條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ書記官ニ通告スルコトヲ得

第八十四條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ贊成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ

前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ效ヲ失フ

第八十五條 通告ヲ爲サル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニ非サレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲サル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第八十六條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ヒ及自己ノ氏名ヲ呼ヒ議長ノ許可ヲ待チテ發言スヘシ

第八十七條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指名シテ發言セシムヘシ

第八十八條 議長開議ヲ宣告スル前及散會延會又ハ會議中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第八十九條 停會延會又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ發言ヲ中止セラレタル議員ハ更ニ會議ヲ開クトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得



第九十條 議題ニ對スル發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ議長ノ許可ヲ得タルトキ又ハ極メテ簡單ナル發言ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
第九十一條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特ニ議長ノ許可ヲ得タルトキ又ハ極メテ簡單ナル發言ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條 議長ハ何時ニテモ議席又ハ國務大臣及政府委員席ニ於テ發言スル者ヲシテ演壇ニ於テ發言セシムルコトヲ得

第九十三條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第九十四條 議員ハ同一ノ議題ニ付キ發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ説明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ説明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 資格ニ付キ異議ヲ申立テラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 議員ハ會議ニ於テ意見書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

國務大臣政府委員及委員長又ハ報告者ハ理由書又ハ報告書ヲ朗讀スルコトヲ得

第九十八條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第九十九條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス



第百條 議場ニ於テ議員ヲ呼フトキハ敬稱ヲ用ウヘシ  
 第百一條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス  
 第百二條 發言者未タ盡キスト雖議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

討論終局ノ動議ハ贊否各二人以上ノ發言アリタル後ニ非サレハ之ヲ提出スルコトヲ得ス但シ一方ノミニ二人以上發言シ他ノ一方ニ於テ發言ノ要求者ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百三條 討論終局ノ動議成立シ若ハ討論終局シタル後本議題ニ關シ國務大臣又ハ政府委員ノ發言アリタルトキハ更ニ討論ニ入りタルモノト看做ス

第百四條 討論終局ノ後未タ議題トナラサル修正ノ成案アルトキハ議長

ハ之ヲ議院ニ報告シ其ノ未タ定規ノ贊成者ヲ具ヘサルモノハ贊成者ノ有無ヲ問ヒタル後其ノ成案ニ關シ更ニ討論ヲ開クヘキヤ否ヲ討論ヲ用キスシテ表決ニ付スヘシ若討論ヲ開クヘカラスト決スルトキハ直ニ之ヲ表決ニ付スヘシ

委員付託ノ動議ハ討論終局ノ後ト雖之ヲ提出スルコトヲ得但シ本議題ノ可否ニ論及スルコトヲ得ス

第百五條 問題ニ對シ質疑續出シテ容易ニ終局セサルトキハ議員ハ質疑ヲ終局スルノ動議ヲ提出スルコトヲ得此ノ動議ニハ第百二條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四節 修正

第百六條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ豫メ議長ニ提出シ議長ハ之ヲ印刷セシメテ各議員ニ配付スヘシ



シ但シ動議者議場ニ於テ其ノ案ヲ朗讀シ定規ノ賛成者ヲ求メテ之ヲ提出スルコトヲ得

第七條 委員會ノ報告ニ係ル修正ハ賛成者ヲ待タスシテ議題ト爲スヘシ

第八條 同一ノ議題ニ付キ數箇ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テハ其ノ原案ニ最モ遠キモノヨリ順次之ヲ表決ニ付スヘシ

前項表決ノ順序ハ議長之ヲ定ム但シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ賛成者アルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第九條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ表決ヲ取ルヘシ

第十條 議題トナリタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ賛成者ト共ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

第十一條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ表決ヲ取ルヘシ

第五節 表決

第十二條 表決ニハ條件ヲ附スルコトヲ得ス

第十三條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第十四條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ議員ハ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第十五條 第七十八條ノ規定ニ依リ討論ヲ爲シタルトキハ議長ハ其ノ



討論ノ順序ニ由リテ表決ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第百十六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セ

シメ起立者ノ多少ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議アルトキハ反對者ヲ起立セシメテ之ヲ反證シ仍疑ハシト認ムルトキ又ハ議員仍異議ヲ申立テ十人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ

氏名點呼ノ結果ニ付キ仍議員ヨリ異議ヲ申立テ二十人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第百十七條 議長ハ問題ニ付キ異議ノ有無ヲ議院ニ諮フコトヲ得異議ナシト認ムルトキハ可決ノ旨ヲ宣告スヘシ但シ議員問題ニ付キ又ハ議長

ノ宣告ニ對シ異議アルトキハ本節ニ規定スル他ノ方法ニ依リ表決ヲ取ルヘシ

第百十八條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用キスシテ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第百十九條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各々其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ

第百二十條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第百二十一條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ



第二百二十二條 氏名點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口  
ヲ閉鎖スヘシ

第二百二十三條 投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第二百二十四條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第六節 豫算會議

第二百五條 豫算ノ會議ハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第二百二十六條 豫算委員會豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査  
終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ  
第二百二十七條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタ  
ルトキハ其ノ事項ニ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコト  
ヲ得

第七節 質問

第二百二十八條 議員質問主意書ヲ提出シタルトキハ議院ニ於テ質問ノ趣  
旨ヲ説明スルコトヲ得

前項ノ説明ニ對シ他ノ議員ハ意見ヲ述フルコトヲ得ス

第七章 議事錄及速記錄

第一節 議事錄

第二百二十九條 議事錄ハ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 議院成立及開會閉會停會ニ關スル事項及年月日時
- 二 開議延會會議中止及散會ノ月日時
- 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
- 四 勅語及勅旨
- 五 議長及委員長報告ノ件



- 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
  - 七 議題トナリタル動議及動議者ノ氏名
  - 八 決議ノ事件
  - 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
  - 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第三百十條 議員議事録ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ表決ヲ取ルヘシ
- 第三百十一條 議事録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名シ又ハ記名捺印スヘシ

第二節 速記録

第三百十二條 議事速記録ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス

第三百十三條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記録ニ記載セス

第三百十四條 發言シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後六時マテニ其ノ訂正ヲ求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ發言ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス國務大臣及政府委員ノ發言ニ付キ亦同シ

速記録ノ訂正ニ對シ議員異議ヲ申立テ一人以上ノ贊成者アルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第八章 上奏建議及議案ノ奏上

第三百十五條 議院上奏シ又ハ勅語及勅旨ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ請フヘシ

第三百十六條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ提出スヘシ



第三百二十七條 議案ヲ奏上スル場合ハ内閣總理大臣ヲ經由スヘシ

第九章 請願

第三百二十八條 議院ハ請願者ノ住所身分年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書ニ非サレハ受理セス但シ請願者自ラ署名スル能ハサルトキ他人ヲシテ代署セシメ自ラ捺印スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三百二十九條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ

第三百四十條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ署名シ又ハ記名捺印スヘシ

第三百四十一條 請願委員會ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第三百四十二條 議員簡單ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ要求スルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ表決ヲ取り時日ヲ限リ請願委員ニ付託スヘシ

第三百四十三條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第三百四十四條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ每週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニ非サレハ印刷配付セス

第三百四十五條 請願委員會ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第三百四十六條 請願委員會ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ特別ノ報告ヲ爲スヘシ



第四百十七條 請願委員會ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ委員會ノ決議ヲ以テ確定トス

第四百十八條 請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十章 請暇及辭職

第一節 請暇

第四百十九條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ公務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第四百五十條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ル、者ハ其ノ出發及歸

著ノ時ニ於テ議長ニ届出ツヘシ

第四百五十一條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第四百五十二條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ效ヲ失フ

第二節 辭職

第四百五十三條 伯子男爵被選議員及勅任議員辭職セムトスルトキハ議長ヲ經由シテ之ヲ奏請スヘシ

第四百五十四條 辭表中不敬又ハ無禮ノ言辭アリト認ムルトキハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査報告セシメ議院ニ諮フテ後之ヲ處分スヘシ



第十一章 警察及秩序

第一節 警察

第百五十五條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第百五十六條 守衛ハ議院建物内警察官吏ハ議院建物外ノ警察ヲ爲ス

第百五十七條 議院ノ防火點燈導水煖爐及衛生ニ關スル事項ハ守衛之ヲ監督ス

第百五十八條 議院内部ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

第百五十九條 議員議場ニ入ルトキハ「フロツクコート」又ハ「モーニン

グコート」若ハ羽織袴ヲ著スヘシ總テ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス

第百六十條 議員議場ニ入ルトキハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ議長ノ許可ヲ得テ杖ヲ携帯スルコトヲ得

第百六十一條 議場内ニ於テ喫煙スヘカラス

第百六十二條 議員ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外議事中新聞紙及書籍ヲ閲讀スルコトヲ得ス

第百六十三條 何人モ議事中濫ニ發言シ又ハ喧噪シテ他人ノ發言ヲ妨クルコトヲ得ス

第百六十四條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ議員ハ總テ沈黙スヘシ

第百六十五條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得



第十二章 傍聽

第六十六條 傍聽席ヲ分テ皇族席外國外交官席高等官席衆議院議員席  
公衆席及新聞記者席トス

第六十七條 外國外交官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ  
依リ書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第六十八條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ  
書記官長ハ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第六十九條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ  
書記官長ハ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ各議員ニ配付ス

第七十條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席ニ空位アリテ議員  
ノ紹介アルトキハ書記官長ハ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第七十一條 新聞社及通信社ノ爲ニ一會期ニ通スル傍聽章ヲ交付ス

前項傍聽章ノ員數ハ每會期ノ始ニ於テ之ヲ定ム

七十二條 傍聽人ハ傍聽券又ハ傍聽章ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所  
ノ座ニ著クヘシ

七十三條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
  - 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス
  - 三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス
  - 四 飲食又ハ喫煙スヘカラス
  - 五 議員ノ發言ニ對シ可否ヲ表スヘカラス
  - 六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス
- 第七十四條 戎器兇器ヲ所持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ル  
コトヲ許サス



第七十五條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第七十六條 祕密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾ナルニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十三章 懲罰

第七十七條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第七十八條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止スルコトヲ得

第七十九條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

第八十條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用

キスシテ表決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第八十一條 懲罰事犯ノ議事ハ祕密會議ヲ以テス

第八十二條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第八十三條 懲罰委員會ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第八十四條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處分スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第八十五條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメムトスルトキハ懲罰委員



會之ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第百八十六條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ノ職權ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セララルコト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ニ對シテハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第百八十七條 出席停止ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第百八十八條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ解任セラレタルモノトス

第百八十九條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第百九十條 議院法第九十一條ノ禁ヲ犯シ其ノ情特ニ重キ者及同會期中出席ヲ停止セララルコト三回ニ至リ更ニ出席停止ニ當ルヘキ事犯アルトキハ除名ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第百九十一條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚ヘキス所行ニシテ其ノ情重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第百九十二條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第百九十三條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ發言ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

第十四章 衆議院トノ關係

第百九十四條 議案ヲ衆議院ニ移ストキハ議長ハ書記官ヲ派シ之ヲ衆議院書記官ニ傳達セシム

第百九十五條 衆議院ヨリ議案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ



第九十六條 協議委員ノ選舉ハ第五十三條及第五十四條ノ規定ヲ適用ス

第九十七條 議院法第五十五條ニ依リ衆議院ヨリ回付シタル修正案ヲ議シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第九十八條 協議會ニ於ケル貴族院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第九十九條 協議委員ノ數協議會ノ定足數及決議ノ方法並協議會議長ノ權限ハ議院法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十五章 補則

第二百條 凡ソ議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

○豫算案議定細則(明治二十四年二月二十七日貴族院議決)

第一條 衆議院ヨリ豫算案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ及印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第二條 議院ハ豫算案審査報告ノ期限ヲ定メ豫算案ヲ豫算委員ニ付託スヘシ

第三條 豫算案ノ審査ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

- 一 歳出ノ部ヨリ始メテ歳入ノ部ニ移ルヘシ
- 二 歳出入ノ審査ハ各項ニ付之ヲ議決シ次ニ其ノ款ノ總額ニ付議決ヲナスヘシ

第四條 豫算委員ノ各科ニ於テハ豫算案各部ノ審査ヲナスヘシ

第五條 豫算委員各科ノ審査終リタルトキハ主査ヨリ其ノ旨ヲ委員長ニ



報告シ委員長ハ豫算委員會ヲ開クヘシ

第六條 各科ノ主査ハ豫算委員會ニ於テ其ノ科ニ於ケル審査ノ報告ヲナシ併セテ其ノ説明ノ責ニ任スヘシ

第七條 豫算委員豫算案ノ審査ヲ終リタルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第八條 決算豫算委員ノ報告書ヲ受取リタルトキハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付シ豫算案ノ會議ヲ開クヘシ

第九條 豫算案ノ會議ニ於テハ第三條ニ規定シタル順序ニ依リ逐次議決スヘシ

第十條 議院ニ於テ憲法第六十七條ニ掲載シタル歳出ノ款項ヲ廢除又ハ削減セントスルトキハ政府ノ同意ヲ求ムルコトヲ議決スヘシ

第十一條 政府ノ同意ヲ求ムルノ議決ヲナシタルトキハ議長ハ文書ヲ以

テ之ヲ政府ニ照會スヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ求ムルモノハ豫算案全部ニ付其ノ款項ヲ列記シテ照會シ又ハ各省所管コトニ照會スルハ議院ノ決スル所ニ依ル

第十二條 前條ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ款項ニ付廢除削減ノ議決ヲナスヘシ

第十三條 議院ニ於テ憲法第六十七條ニ掲載シタル歳出ノ款項ニ付廢除削減ヲ企テサルモノ及政府ノ同意ヲ求メテ之ヲ得サルモノハ議決スルノ限ニアラス

第十四條 議院ハ歳出歳入ノ部ヲ議了シタル後豫算委員ヲシテ豫算案ノ全體ヲ整理シ之ヲ議院ニ報告セシムヘシ

第十五條 衆議院議決ノ豫算案ニ修正ヲ加ヘタルトキハ衆議院ニ之ヲ回



付スヘシ

○決算議定細則(明治二十七年五月二十九日貴族院議決)

第一條 本院ニ於テ決算ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告シ及印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第二條 決算委員ハ數科ニ分割シ各科ニ主査ヲ置クヘシ

第三條 決算委員ノ各科ニ於テハ付託セラレタル決算各部ノ審査ヲナスヘシ

第四條 決算委員ノ各科ニ於テ審査終リタルトキハ主査ヨリ其ノ結果ヲ委員長ニ報告スヘシ

第五條 前條ノ審査報告アリタルトキハ決算委員會ヲ開クヘシ

第六條 各科ノ主査ハ決算委員會ニ於テ其ノ科ニ於ケル審査ノ報告ヲナ

シ併セテ其ノ説明ノ責ニ任スヘシ

第七條 決算委員會ニ於テハ異議アル收支ノ款項ニ限リ之ヲ議題トナシ其ノ異議ナキ款項ハ總括シテ之ヲ議決ニ付スヘシ

第八條 決算委員會ニ於テ其ノ決算ヲ至當ナリト決スルトキハ其ノ旨ヲ議長ニ報告スヘシ

第九條 決算委員會ニ於テ其ノ決算中違法又ハ不當ノ收支アリト認ムルトキハ其ノ決議案又ハ上奏案ヲ具ヘテ議長ニ報告スヘシ

第十條 決算委員長ノ報告アリタルトキハ議長ハ之ヲ印刷シテ各議員ニ配付シ其ノ會議ヲ開クヘシ

第十一條 決算ノ會議ニ於テハ決算委員長ノ報告ヲ議題トナスヘシ



○會計法

(大正十二年法律第四十二號)

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル  
一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 每會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ  
大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス



第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ  
款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

一 歳入豫算明細書

二 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノ  
ハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議

會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノ  
ヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年

度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度

帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納  
スヘシ

法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ  
歳入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌  
セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此



ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ

得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歳入金、歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得



第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限り前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得但シ軍艦、兵器、彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限り勅令ヲ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ株式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

不納缺損額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

會計法(決算)



豫算決定後増加歳出額  
支出濟歳出額  
翌年度繰越額  
不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附ス  
ヘシ

- 一 歳入決算明細書
- 二 各省決算報告書
- 三 國債計算書

第六章 歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外  
收入及定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰

入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事  
製造又ハ物品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣工又  
ハ納入若ハ運搬ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ  
之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十八條 數年ヲ期シテ竣工スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續  
費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣工年度迄遞次繰  
越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備  
金ヲ以テ補充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ毎項定額中  
不用ト爲リタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ



總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ支出濟歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルルコトヲ得

第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章 時効

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時効ニ關シ他ノ法律ニ規定ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルト



キハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納、國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十七年法律第十六號、明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ



前年度及前々年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
 本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効  
 ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル  
 本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メ  
 タル時効ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施  
 行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキ  
 ハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス  
 前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令  
 ヲ以テ之ヲ定ム

○會計規則(大正十一年勅令第一號)

第一章 總則

第一節 會計年度所屬區分

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度

會計規則 (總則、會計年度所屬區分)



- 二 諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 三 俸給、給料、手当、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 四 使用料、保管料、電燈電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
- 五 工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 六 前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出

納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ除クノ外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條 毎年度所屬歲入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クルノ場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

- 一 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歲入金ノ拂込アリタルトキ
- 二 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歲入金ノ送付アリタルトキ



三 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ  
毎年度所屬歳出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限ト  
ス

第二章 豫算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳  
入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ  
性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ  
目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歳入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較  
ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ  
歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ  
區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫  
算額ト比較ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ  
大藏大臣ニ送付スヘシ

第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所  
要ノ金額ヲ各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要



ノ理由及計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ  
支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支出

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ



第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收入

第一節 徴收

會計規則 (豫備金支出、翌年度ニ互ル契約、收入、徴收)



第二十八條 歳入徴收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ但シ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ特例ヲ設クルコトヲ得

歳入徴收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徴收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條 支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 歳入徴收官租税其ノ他ノ歳入ヲ徴收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ、所屬年度及歳入科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條 歳入徴收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納

付スヘキ金額、期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二節 收 納

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租税其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ



第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報告

第三十七條 歳入徴收官ハ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歳入事務管理廳ハ徴收報告書ニ依リ毎月徴收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一節 總則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキハ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナ



キカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スル  
コトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支  
出科目、番號其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除ク  
ノ外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條 支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ  
日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス  
第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ  
通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四  
月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第  
十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出  
ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令  
ニ違フコトナキカ、券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコ  
トナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年  
ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場  
合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ



出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ

請求スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲クル經費ニ限ル

- 一 陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費
- 二 陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費
- 三 陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費



四 官船ニ屬スル經費

五 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

六 運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

七 廳中常用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

八 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

九 各廳直營ノ工事、製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常

時五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

十 監獄作業賞與金

十一 囚人及刑事被告人押送費

十二 證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘ

シ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ

支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ

六月分以内ヲ交付スルコトヲ得

二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り

成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲

クル經費ニ限ル但シ第九號乃至第十三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大

臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價

二 外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價

三 朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル

徵兵旅費



四 運賃

五 外國ニ於テ支拂フ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課

六 政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料

七 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

八 外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與

九 交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十 軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費

十一 外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與

十二 補助金

十三 諸謝金

第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂フ爲シ得ルハ左ニ掲

クル經費ニ限ル但シ第三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 旅費

二 官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

三 補助金又ハ補給金

第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲クル官署ノ經費ニ限ル

一 在外各廳

二 遞信官署

三 區裁判所出張所

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署

會計規則 (資金前渡、前金拂、概算拂及渡切經費)



前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歳出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

第六十二條 各省大臣ハ左ニ掲クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰越金ニ限ル

一 旅費

二 埋葬費

三 在外公館ニ於ケル難民貸與金

四 海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシ

ムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ



第七節 報告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及

收入支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對スル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ



第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理廳又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
- 二 當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利子ノ計算
- 三 最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情況ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一 繰越ヲ要スル項ノ定額
- 二 定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
- 三 定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 四 定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫



其ノ他ノ參照書類ヲ添附スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出濟ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危険ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一 三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

會計規則 (定額戻入、契約、總則)



二 外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲スト

三 糶賣ニ付スルトキ

四 物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五 第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場

合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登録前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事、製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣功又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ檢



查ノ官吏又ハ技術者ヲ命シ事實ヲ調定シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ  
前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付  
テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九、物件ノ買入ニ付テハ其ノ  
既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性  
質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額  
迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一  
部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣  
之ヲ定ム

第二節 一般競争契約

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ  
定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年  
間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技  
術者トシテ使用シタル者亦同シ

一 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造又ハ物件ヲ粗雜ニシ又ハ  
其ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ行爲アリタル者

二 競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲  
シタル者

三 競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害  
シタル者

四 検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者



五 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セザリシ者

六 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約

ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使

用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金額百分

ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第一百一條 競争ハ第九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ

以テ之ヲ行フヘシ

第一百二條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ

前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙、揭示其ノ他ノ方法ヲ以

テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

一 競争入札ニ付スル事項

二 契約條項ヲ示ス場所

三 競争執行ノ場所及日時

四 入札ノ保證金額

第一百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付ス

ル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場

所ニ置クヘシ

第一百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ

行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官



吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ  
入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得  
ス

競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シ  
タル入札ハ無効トス

第百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第百四條ノ規定ニ依リ豫定シ  
タル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシム  
ルコトヲ得

第百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ  
直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲サザル者ア  
ルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第百八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ  
於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短  
縮スルコトヲ得

第百九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル  
場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ糶賣ニ付スルコトヲ  
得

第三節 指名競争契約

第百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ  
於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競  
争ニ付スルノ必要ナキトキ
- 二 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル



財産ノ買入ヲ爲ストキ

- 三 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
  - 四 豫定賃貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
  - 五 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
  - 六 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ
- 隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス

第百十一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ

第百十二條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ

付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第百十三條 第九十七條乃至第百一條、第百四條乃至第百七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

第百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ
- 二 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ
- 三 政府ノ行爲ヲ祕密ニスルノ必要アルトキ



- 四 五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 五 賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 六 豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 七 豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 八 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ
- 九 勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ
- 十 運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ
- 十一 官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十二 農工場、學校、試験所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 十三 法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ

- 其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十四 非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 十五 外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ
- 十六 道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ
- 十七 移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ
- 十八 學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ
- 十九 産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生産者ヨリ直接ニ其ノ生産若ハ製造ニ係ル物品



ノ買入ヲ爲ストキ

二十 公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ヲ直接ニ公共團體又ハ起業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十一 土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二 事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建物ノ借入ヲ爲ストキ

二十三 法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘ

シ

第百十五條 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限リ該價格又ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積



書ヲ徴スヘシ

第一百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第一百二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ金又ハ有價證券ヲ保管セス

第一百二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第一百二十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第一百二十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ

外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總則

第一百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第一百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第一百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第一百二十七條 所管大臣ハ會計法第二十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官

會計規則 (保管金及有價證券、出納官吏、總則)



署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一 鐵道官署

二 遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第二百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコトヲ得

第二百三十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第二百三十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責任

第二百三十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官、分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス

第二百三十三條 代理出納官吏、分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付



會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス  
會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第三百三十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、

退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス

大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第三百三十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定書二通ヲ作成シ検査員及當該出納官吏、出納員又ハ立會人之ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏、出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣



ニ提出スヘシ

第三百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第四百十條 租税其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入徴收官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十一條 資本ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四百十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百十條乃至第四百十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書



ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第四百十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第四百十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第四百十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計

算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金、國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第五十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル



第十一章 帳簿

第一百五十二條 大藏省ハ日記簿、原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百五十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ歳入主計簿ニハ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記シ歳出主計簿ニハ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十四條 歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ

第一百五十五條 歳入事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額及收入未済額ヲ登記スヘシ

第一百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ支拂豫算額、支出済額及支

拂豫算殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十七條 各省ハ歳出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出済額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ

第一百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム

第一百六十條 日本銀行ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

- 一 國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿
- 二 支拂豫算額及支拂済額ヲ登記スヘキ帳簿
- 三 國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿



四 國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿

五 隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿

六 有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿

前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム

第六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜則

第六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

仕拂命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第二百二十一號

金庫規則

明治二十三年勅令第二號

會計規則 (雜則、附則)



明治二十三年勅令第二十號  
明治二十三年勅令第三十二號  
明治二十三年勅令第三十五號  
明治二十三年勅令第四百號  
明治二十三年勅令第四百十八號  
明治二十三年勅令第四百九十三號  
明治二十三年勅令第二百七十三號  
明治二十三年勅令第二百九十五號  
明治二十四年勅令第一號  
明治二十四年勅令第二十四號  
明治二十四年勅令第七十五號  
明治二十四年勅令第六十三號

明治二十六年勅令第五十一號  
明治二十六年勅令第七十號  
明治二十六年勅令第二百二十八號  
明治二十七年勅令第四十號  
明治二十七年勅令第七十六號  
明治二十八年勅令第四百四號  
明治二十九年勅令第五百五十八號  
明治二十九年勅令第二百四十號  
明治二十九年勅令第二百六十八號  
明治二十九年勅令第三百七十三號  
明治三十年勅令第十五號  
明治三十年勅令第二十一號



明治三十年勅令第五十八號  
 明治三十年勅令第二百二十七號  
 明治三十一年勅令第三十七號  
 明治三十一年勅令第三十八號  
 帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森林原野並產物特別處分規則  
 明治三十一年勅令第七十四號  
 明治三十二年勅令第二十五號  
 明治三十二年勅令第二百六號  
 明治三十二年勅令第二百二十九號  
 明治三十二年勅令第三百三號  
 明治三十二年勅令第三百六十三號  
 明治三十二年勅令第三百七十五號

明治三十二年勅令第四百十三號  
 明治三十二年勅令第四百二十四號  
 明治三十二年勅令第四百三十七號  
 明治三十三年勅令第三十九號  
 明治三十三年勅令第二百八十號  
 明治三十三年勅令第三百四十二號  
 明治三十三年勅令第四百八號  
 明治三十四年勅令第八號  
 明治三十四年勅令第二百二十號  
 明治三十五年勅令第二百五號  
 明治三十五年勅令第二百三十六號  
 明治三十六年勅令第二十三號



明治三十六年勅令第百八十號  
明治三十七年勅令第十號  
明治三十七年勅令第十七號  
明治三十七年勅令第五十四號  
明治三十七年勅令第百七十八號  
明治三十七年勅令第二百十七號  
明治三十八年勅令第二十二號  
明治三十八年勅令第三十二號  
明治三十八年勅令第三十五號  
郵便電信及電話官署經費渡切規則  
明治三十八年勅令第二百二十八號  
明治三十八年勅令第二百一號

明治三十八年勅令第二百二號  
明治三十八年勅令第二百六十五號  
明治三十八年勅令第二百九十號  
明治三十九年勅令第九十三號  
明治三十九年勅令第一百一號  
明治三十九年勅令第二百四十六號  
明治三十九年勅令第二百七十號  
明治四十年勅令第八十四號  
明治四十年勅令第百五十號  
明治四十年勅令第二百二十七號  
明治四十年勅令第二百六十一號  
明治四十年勅令第三百四十一號



明治四十一年勅令第三百三十八號  
明治四十一年勅令第三百五十八號  
明治四十一年勅令第二百四十八號  
明治四十一年勅令第三百一十一號  
明治四十二年勅令第六十一號  
明治四十二年勅令第二百二十六號  
明治四十三年勅令第三百四十一號  
明治四十三年勅令第四百八號  
明治四十三年勅令條四百九號  
明治四十四年勅令第六十一號  
明治四十四年勅令第六十二號  
明治四十四年勅令第五百五十六號

明治四十四年勅令第二百二十號  
明治四十四年勅令第二百七十九號  
明治四十四年勅令第二百九十二號  
大正元年勅令第七號  
大正二年勅令第三百三號  
大正三年勅令第三號  
大正三年勅令第三百三十五號  
大正三年勅令第三百三十六號  
大正四年勅令第五十五號  
大正四年勅令第七十八號  
大正四年勅令第八十七號  
大正四年勅令第九十五號



- 大正四年勅令第二百二十五號
- 大正五年勅令第四十五號
- 大正五年勅令第一百五十五號
- 大正五年勅令第一百六十二號
- 大正五年勅令第一百七十三號
- 大正五年勅令第一百八十八號
- 大正五年勅令第一百九十八號
- 大正五年勅令第二百十九號
- 大正六年勅令第五十二號
- 大正六年勅令第一百六十二號
- 大正六年勅令第一百八十一號
- 大正六年勅令第二百三十四號

- 大正七年勅令第二百二十二號
- 大正八年勅令第三號
- 大正八年勅令第二十六號
- 大正八年勅令三百六十二號
- 大正九年勅令第二百二十五號
- 大正九年勅令第三百三十六號
- 大正九年勅令第五百四十七號
- 大正十年勅令第四百四十四號
- 大正十年勅令第四百二十八號
- 大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス
- 第六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歲入金ニシテ  
本令施行前收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ



之ヲ收納ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了セサル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歲出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整理スヘシ

第七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル

資金ニシテ大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

七十二條 大正十年度支出濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主計簿ニ於テハ仕拂命令濟歲出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歲出額ハ同年度歲入歲出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出濟歲出額ニ併算スヘシ

七十三條 大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第六十條第二號ノ帳簿ニ代用セシムルコトヲ得

七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大歲大臣之ヲ定ム



○國有財産法(大正十三年法律第四十三號)

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル

總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルト

二 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ



三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財用ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財産ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限リ之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財産ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタ

ル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財産ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ



前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財産ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
- 二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以下ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル

場合ニ在リテハ三十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年  
貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 國有財産ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十七條 國有財産ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得



前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス



寺院又ハ佛堂ノ上地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國有財産ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ  
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産増減總計算書及每五年三月三十一日現在ノ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財産増減總計算書ニハ各省ノ國有財産増減報告書ヲ、國有財産現在額總計算書ニハ各省ノ國有財産現在額報告書ヲ添附スヘシ

附則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本



法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

○國有財産法施行令(大正十一年勅令第十五號)

第一章 總則

第一條 左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財産法第一條ノ國有財産トス

- 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠
- 二 不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物

三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具

四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利

五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、大學資金、學校及圖書館資金又ハ在外國帝國專管居留地特別會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス



第三條 各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

- 一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ
- 二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計

ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財産ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額



ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ  
評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又

ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出



テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得  
前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ  
隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ  
一 土地又ハ水面ノ所在及面積



二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ  
前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ



第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

- 一 種目
  - 二 所在又ハ所屬
  - 三 數量
  - 四 價格
  - 五 得喪變更ノ年月日及事由
  - 六 其ノ他必要ナル事項
- 第三十二條 國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ
- 一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額
  - 二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格



三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費  
又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲  
クルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三  
月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年  
ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ  
其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準ト  
シテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三十四條 作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノノ價

格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ  
調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會  
計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調  
製シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ  
調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在  
額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ



大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上祕密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ湟壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百四十六號達

明治八年第四百九十八號達

明治九年第四十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ湟壘外岸接近ノ官有地へ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

國有財産法施行令



明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財産管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

明治二十七年勅令第九十二號

明治三十六年勅令第九十六號

明治三十九年勅令第二百二十號

明治四十一年勅令第一百十九號

明治四十二年勅令第七十號

大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北

海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム



○國有財産法施行期日(大正十一年勅令第六十一號)

國有財産法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○公式令(明治四十年勅令第六號)

第一條 皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ別段ノ形式ニ依ルモノヲ除クノ外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ内閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第二條 文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セサルモノハ別段ノ形式ニ依

ルモノヲ除クノ外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條 帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢及帝國憲法第七十三條ニ依ル帝國議會ノ議決ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第四條 皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ國務各大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條 皇室典範ニ基ツク諸規則、宮内官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅



定ヲ經タル規程ニシテ發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス國務大臣ノ職務ニ關連スル皇室令ノ上諭ニハ内閣總理大臣又ハ内閣總理大臣及主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

皇族會議及樞密顧問又ハ其ノ一方ノ諮詢ヲ經タル皇室令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第六條 法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル法律ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

第七條 勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務各大臣若ハ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル勅令及貴族院ノ諮詢又ハ議決ヲ經タル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載シ帝國憲法第八條第一項又ハ第七十條第一項ニ依リ發スル勅令ノ上諭ニハ其ノ旨ヲ記載ス

帝國議會ニ於テ帝國憲法第八條第一項ノ勅令ヲ承諾セサル場合ニ於テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スル勅令ノ上諭ニハ同條第二項ニ依ル旨ヲ記載ス

第八條 國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス



第九條 豫算及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スノ件ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ帝國議會ノ協賛ヲ經タル旨ヲ記載シ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任ノ國務大臣ト俱ニ之ニ副署ス

第十條 閣令ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス  
省令ニハ各省大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

宮内省令ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ署名ス

第十一條 皇室令、勅令、閣令及省令ハ別段ノ施行時期アル場合ノ外公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス

第十二條 前數條ノ公文ヲ公布スルハ官報ヲ以テス

第十三條 國書其ノ他外交上ノ親書、條約批准書、全權委任狀、外國派遣官吏委任狀、名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐

シ主任ノ國務大臣之ニ副署ス外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ内閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條 親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

内閣總理大臣ヲ任スルノ官記ニハ他ノ國務大臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ任スルノ官記ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス  
奏任官ノ官記ニハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス  
宮内官ニ付テハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス  
第十五條 親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ内



閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

内閣總理大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ他ノ國務大臣又ハ内大臣、宮内大臣ヲ免スルノ辭令書ニハ内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ヲ免スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

奏任官ヲ免スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十六條 爵記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第十七條 一位ノ位記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

二位以下四位以上ノ位記ニハ御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

五位以下ノ位記ニハ宮内省ノ印ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ宣ス

第十八條 爵位ノ返上ヲ命シ又ハ允許スルノ辭令書ニハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス

第十九條 勳三等功五級以上ノ勳記ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ勳四等功六級以下ノ勳記ニハ國璽ヲ鈐シ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

勳記ニハ勳章ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス

第二十條 記章ノ證狀竝外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ニハ内閣總理



大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ之ニ署名セシム

證狀ニハ其ノ種別ニ從ヒ號數ヲ附シ簿冊ニ記入スル旨ヲ附記シ賞勳局ノ印ヲ鈐シ賞勳局書記官之ニ署名ス

第二十一條 勳章及記章並外國勳章及記章ノ佩用免許ノ證狀ヲ褫奪スルノ辭令書ニハ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ記入シ之ニ署名セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
公文式ハ之ヲ廢止ス

○請願令(大正六年)  
勅令第三十七號

第一條 請願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二條 請願ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

請願書ニハ侮辱誹毀ニ涉リ又ハ秩序風俗ヲ紊ル文辭ヲ用ウルコトヲ得ス

第三條 請願書ノ文字ハ端正鮮明ナルコトヲ要ス

第四條 請願書ニハ請願ノ要旨、理由、年月日、請願者ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ請願者各自之ニ署名捺印スヘシ

第五條 法人請願者ナルトキハ其ノ名稱及住所ヲ記載シ法定ノ代表者各自請願書ニ署名捺印スヘシ

第六條 法人ハ其ノ目的ノ遂行ニ關係アル事項ニ非サレハ請願ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 未成年者及禁治産者ノ請願ハ其ノ法定代理人ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ請願書ニ代理ノ事由及法定代理人ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ法定代理人之ニ署名捺印スヘシ



第八條 署名スルコト能ハサル者ハ他人ヲシテ代署セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代署者

請願書ニ其ノ事由ヲ附記シ且其ノ族稱、職業、住所、年齢ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

第九條 請願ハ第七條ノ場合ヲ除クノ外代理人ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ封皮ニ請願ノ二字ヲ朱書シ内大臣府ニ宛テ其ノ他ノ請願書ハ

請願ノ事項ニ付職權ヲ有スル官公署ニ宛テ郵便ヲ以テ差出スヘシ

第十一條 左ニ掲クル事項ニ付テハ請願ヲ爲スコトヲ得ス  
一 皇室典範及帝國憲法ノ變更ニ關スル事項

二 裁判ニ干預スル事項

第十二條 相當ノ敬禮ヲ守ラス又ハ本令ノ規定ニ違反スル請願書ハ之ヲ却下ス但シ官公署ニ對

スル請願書ハ第三條乃至第五條、第七條第二項又ハ第八條ノ規定ニ違反スルモ之ヲ却下セサ

ルコトヲ得

第十三條 請願ニ對シテハ指令ヲ與ヘス

第十四條 天皇ニ奉呈スル請願書ハ内大臣奏聞シ旨ヲ奉シテ之ヲ處理ス

第十五條 請願ニ關シ官公署ノ職員ニ強テ面接ヲ求メタル者ハ二月以下ノ禁錮若ハ五十圓以下

ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

二人以上共ニ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 行幸ノ際沿道又ハ行幸地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス行

啓ノ際沿道又ハ行啓地ニ於テ直願ヲ爲サムトシタル者亦同シ

第十七條 請願ヲ爲サシムル爲他人ヲ誘惑若ハ煽動シ又ハ名義ノ何タルヲ問ハス請願ニ關スル

運動ノ爲金錢其ノ他ノ利益ヲ收受シ、要求シ若ハ其ノ收受ヲ約束シタル者ハ六月以下ノ懲役

又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○皇室典範(明治二十二年二月十一日)

第一章 皇位繼承

第一條 大日本帝國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサ

皇室典範(皇位繼承)



ルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年大定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

皇室典範(踐祚即位、成年立后立太子、敬稱)



第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコト



ト又得

第二章第六節 太傅

第三十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第三十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議

及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第三十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第三十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サルハ太傅

ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第二章第七節 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫

皇太孫妃親王妃内親王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇太子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世

以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王

タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌

ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ

勅選スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族



ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨

ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ

得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以

テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定

ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ

命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ

裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スル

コトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺

皇室典範(世傳御料、皇室經費、皇族訴訟及懲戒)



クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス  
第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

○皇室典範増補(一) (明治四十年二月十一日)

第一條 王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ



第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入リタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條 皇族ノ臣籍ニ入タル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條 皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ム

皇族ト人民トニ涉ル事項ニシテ各々適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ

前項ノ規程ニ依ル

第八條 法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ之ニ基ツキ發スル規則ニ別段ノ條規ナキトキニ限り之ヲ適用ス

○皇室典範增補(二)(大正七年十一月二十八日)

皇族女子ハ王族又ハ公族ニ嫁スルコトヲ得

○攝政令(明治四十二年皇室令第二號)

第一條 攝政就任スル時ハ附式ノ定ムル所ニ依リ賢所ニ祭典ヲ行ヒ且就任ノ旨ヲ皇靈殿神殿ニ奉告ス(附式略)

第二條 攝政ヲ置キタルトキ又ハ攝政ノ更迭アリタルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス



第三條 攝政ヲ置ク間御名ヲ要スル公文ハ攝政御名ヲ書シ且其ノ名ヲ署スルノ外天皇大政ヲ親ラスルトキト形式ヲ異ニスルコトナシ

第四條 攝政ハ其ノ任ニ在ル間刑事ノ訴追ヲ受クルコトナシ

第五條 攝政止ミテ天皇大政ヲ親ラスルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

○宮中席次令(大正四年 皇室令第一號)

第一條 高等官有勳者有爵者有位者及優遇者ノ宮中ニ於ケル席次ハ特旨ニ由ルモノノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 席次ハ別表ノ順位ニ依ル

同順位ノ者ノ間ニ在リテハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除ク外其ノ身位ヲ得タル日ノ前後ニ從ヒ其ノ前後ナキトキハ其ノ日ニ有シタル席次

ノ順序ニ從ヒ其ノ日ニ席次ヲ有セサルトキハ年齢ノ順序ニ從フ

同爵者間ノ席次ハ位階ニ依ル

第三條 大臣ノ禮遇又ハ前官ノ禮遇ヲ賜ハリタル者ニシテ其ノ順位ヲ超テタル官ニ任セラレ退官又後更ニ前ニ賜ハリタル禮遇ト同一順位ノ禮遇ヲ賜ハリタルトキハ前ニ禮遇ヲ賜ハリタルトキ有シタル席次ニ依ル

後ノ禮遇前ノ禮遇ノ下ナルトキハ第六條ノ例ニ依ル

第四條 親任官ニシテ國務大臣ニ任セラレ退官ノ後二年以内ニ更ニ前ト同一順位ノ官ニ任セラレタルトキハ前ニ有シタル席次ニ依ル前ノ順位ヨリ降りタル官ニ任セラレタルトキハ第六條ノ例ニ依ル

第五條 退官退職ノ日ヨリ二年以内ニ前官職ト同一ノ順位ニ相當スル官職ニ就キタルトキハ前官職ノ時有シタル席次ニ依ル

第六條 官職ノ異動アリタルトキハ同順位ナル場合ニ在リテハ前官職ノ



時有シタル席次ヲ保有シ前官職ノ順位ヨリ降リタル場合ニ在リテハ其ノ相當順位ノ首席トス

第七條 休職非職又ハ退職ノ文官豫備ノ理事及豫備役後備役又ハ退役ニ在ル者ハ別表各相當順位ノ下席トス

第八條 朝鮮軍人ハ各相當順位中第七條ニ掲クル者ノ次席トシ現役ニ在ル者ハ現役ニ在ラサル者ノ上席トス

第九條 同一人ニシテ二箇以上ノ身位ヲ有スルトキハ其ノ高キニ從フ但シ特定ノ身位ニ依リ席次ヲ定ムル必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 妻ハ夫ノ席次ニ次ク

第十一條 官職ヲ有スル者ニ就キ職務上ノ必要ニ依リ特ニ席次ヲ定ムル場合ニ在リテハ前數條ノ規定ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際ニ於ケル既定ノ席次ハ第四條又ハ第五條ノ規定ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ  
明治十七年宮内省達乙第五號及第六號並明治二十四年宮内省達甲第六號ハ之ヲ廢止ス

(別表)

第一階

第一 大勳位

- 一 菊花章頸飾
- 二 菊花大綬章

第二 內閣總理大臣

第三 樞密院議長

宮中席次令